

鳥獣被害防止総合対策事業の評価報告(令和4年度報告)

事業主体 鳥羽市

1 被害防止計画の特徴等

本市では、中山間地域を中心にニホンザル、イノシシ、ニホンジカのほかタヌキ、ハクビシン、アナグマによる農作物等の被害が増加していた。近年では公園や住宅地にも出没し、生活環境にも影響を及ぼしていた。本市の被害対策の特徴は、集落ぐるみで獣害対策に取り組む体制づくりを目指し、サルに対する追い払いを中心とした集落での対策と、地元猟友会を中心とした捕獲強化への対策、侵入防止柵の整備を進めている。

2 事業効果の発現状況

被害防止計画の計画期間中、同計画を適宜見直し、有害捕獲期間を通年にするとともに、ニホンジカ、イノシシの捕獲目標頭数を上方修正し、また、対象鳥獣にアナグマを加えるなど捕獲強化に取り組んだ。この結果、有害捕獲頭数が期間を通じて増加することができた。

3 被害防止計画の目標達成状況

全体としては、被害金額・被害面積ともに目標を達成したものの、獣種別では、豚熱でイノシシ被害が大きく減少したことによるものであり、他獣種は全て被害目標を達成することができなかった。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始(ハード事業)	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画(改善)の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値(R4年)	実績値(R4年)	達成率	目標値(R4年)	実績値(R4年)	達成率			
鳥羽市 (鳥羽市獣害対策協議会)	鳥羽市	R2	ニホンジカ・イノシシ・ニホンザル・タヌキ	緊急捕獲	ニホンジカ成獣:121頭 イノシシ成獣:275頭 ニホンザル成獣:11頭 合計:407頭				緊急捕獲事業の活用として、前年度捕獲頭数186頭から増加することができた。	ニホンジカ 1,220 イノシシ 5,200 ニホンザル 2,900 タヌキ 0 アライグマ 0 ハクビシン 0 アナグマ 0	ニホンジカ 2,236 イノシシ 1,706 ニホンザル 3,689 タヌキ 20 アライグマ 20 ハクビシン 20 アナグマ 50	ニホンジカ -133.1% イノシシ 1,149.2% ニホンザル -328.8% タヌキ -100% アライグマ -100% ハクビシン -100% アナグマ -400%	ニホンジカ 1.0 イノシシ 5.5 ニホンザル 2.0 タヌキ 0.0 アライグマ 0.0 ハクビシン 0.0 アナグマ 0.0	ニホンジカ 2.4 イノシシ 2.1 ニホンザル 3.4 タヌキ 0.0 アライグマ 0.0 ハクビシン 0.0 アナグマ 0.0	ニホンジカ -711.8% イノシシ 966.7% ニホンザル -600.0% タヌキ -1,900.0% アライグマ -1,900.0% ハクビシン -1,900.0% アナグマ -2,900.0%	被害防止計画の計画期間中、同計画を適宜見直し、有害捕獲期間を通年にするとともに、ニホンジカ、イノシシの捕獲目標頭数を上方修正し、また、対象鳥獣にアナグマを加えるなど捕獲強化に取り組んだ。また、鳥羽市獣害対策協議会が行った貸出用捕獲資材の整備により有害捕獲を効率的に進めることができた。ただし、本計画期間中の被害目標の達成は、豚熱によるイノシシ被害の減少によるところが大きく、期間中の取組みが直接的に目標達成に寄与したものではないと考えられ、今後さらに対策を強化していく必要がある。	引き続き、捕獲の強化・継続とあわせて、侵入防止柵の設置や追い払いなどの獣害対策5か条を複合的に取り組む集落の育成を推進し、総合的被害防止対策をすすめてください。また、ニホンザルについては群の調査の実施、アライグマなどの中型獣については中型獣用の侵入防止柵設置の推進等もすすめてください。	継続的に捕獲・駆除を行っているところが評価できます。今後も捕獲とともに侵入防止柵の設置や適切な柵の維持管理等をすすめ、総合的な被害防止対策を推進してくださることを期待します。
		R3	ニホンジカ・イノシシ・ニホンザル・タヌキ・アライグマ・ハクビシン・アナグマ	緊急捕獲	ニホンジカ成獣:261頭 イノシシ成獣:244頭 ニホンザル成獣:27頭 小動物:11頭 合計:543頭			被害防止計画の見直しにより、小動物を事業対象に加え強化を行ったところ、豚熱の影響でイノシシの捕獲頭数は減少したものの、生息域の拡大がみられるニホンジカやニホンザルでの捕獲頭数が増加した。	合計 9,320	合計 7,741	合計 351.4%	合計 8.5	合計 8.0	合計 166.8%				
		R4	ニホンジカ・イノシシ・ニホンザル・タヌキ・アライグマ・ハクビシン・アナグマ	緊急捕獲	ニホンジカ成獣:398頭 イノシシ成獣:141頭 ニホンザル成獣:16頭 小動物:60頭 合計:615頭			豚熱の影響でイノシシの捕獲頭数は減少したものの、生息域の拡大がみられるニホンジカでの捕獲が大幅に増加した。										

注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。

2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。

3:事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。

4:「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。

5:鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。

5 都道府県による総合的評価